



## 日本音楽教育学会ニュースレター 第69号

### 目 次

#### 1 学会からのお知らせ

- |   |       |   |
|---|-------|---|
| 1. 日本音楽教育学会第48回大会のご案内(第2報) .....        | 新山王政和 | 2 |
| 2. 政府の教育勅語使用容認答弁に関する要望書・共同声明書について ..... | 小川 容子 | 4 |
| 3. 会長・理事選挙結果報告 .....                    | 高橋 雅子 | 5 |

#### 2 委員会からのお知らせ

- |                       |  |   |
|-----------------------|--|---|
| 1. 編集委員会からのお知らせ ..... |  | 6 |
|-----------------------|--|---|

#### 3 音楽教育の窓

- |  |       |   |
|--|-------|---|
| 1. 〈連載〉音楽・教育・学校(13)<br>APSMER 誕生秘話—生誕20周年を記念して ..... | 村尾 忠廣 | 7 |
| 2. 国際音楽療法協会世界大会報告 .....                              | 渡辺 恭子 | 8 |

#### 4 会員の声

- |   |       |    |
|---|-------|----|
| 1. 日本音楽教育学会会員としての矜持<br>—日本音楽教育学会のアウトヘーベン— ..... | 伊串 博  | 9  |
| 2. 教育改革の流れの中で .....                             | 木村 次宏 | 10 |
| 3. 日本音楽教育学会歴17年 .....                           | 味府 美香 | 10 |
| 4. 子どもの音楽表現につながるピアノ指導を目指して .....                | 井上 基子 | 11 |
| 5. 会員の新聞・近刊等紹介 .....                            |       | 11 |

#### 5 報告

- |                         |  |    |
|-------------------------|--|----|
| 1. 平成29年度第2回常任理事会 ..... |  | 12 |
|-------------------------|--|----|

#### 6 事務局より

[編集後記]

16

# 1 学会からのお知らせ

## 1 日本音楽教育学会第48回大会のご案内（第2報）

大会実行委員長 新山王 政和

### 1. 研究発表およびプロジェクト研究のご案内

口頭発表 97 件、ポスター発表 36 件、共同企画 11 件ものエントリーがありました！

- ・プロジェクト研究Ⅰ：「学校と社会を結ぶ音楽教育（第1年次）」
- ・プロジェクト研究Ⅱ：「若手研究者が考える音楽教育学の今後（第2年次）」

### 2. 大会実行委員会企画【講演・シンポジウム】@講堂

講演：「教育改革の中で問われる教師の力量とその育成」	14:50-15:50
講師：後藤ひとみ（国立大学法人 愛知教育大学学長）	

シンポジウム：「学校での音楽教育を担当する人材をどのように育てていくのか」	16:00-17:15
シンポジスト：津田正之・小川容子・山内雅子・山下薫子	

昨年の大会では「ミュージキング：原点からの音楽教育」のテーマの下、「音楽教育で何を教えるべきなのか」について議論した。これに続く愛知大会では「学校での音楽教育を担当する人材をどのように育てていくのか」をテーマに掲げ、文部科学省新学習指導要領が示された直後の大会として、音楽科授業や学校内音楽活動の中核を担う教員の養成について議論を深めるとともに、フロアも交えて情報共有を行いたい。

3月に示された新学習指導要領では、教科の目標及び内容が「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の三つの柱で整理された。また、それらの資質・能力を育成するためには、各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方である「見方・考え方（小学校音楽科の場合：音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や文化などと関連付けること）」を働かせて学習活動に取り組めるようにする必要があることを示している。

同時期に教育職員免許法も改定されることから、大学等教員養成機関には抜本的なカリキュラムの改編が求められている。さらに国立大学教員養成系大学院では教育学研究科から教職大学院への改組が進められており、ここでは教科指導に加えて児童・生徒指導、カリキュラムマネジメント、チームとしての学校に対応する学校経営・学級経営などの「教師スキルの育成」について確実な質保証が求められている。またミドルリーダーやシニアリーダーの養成を核とした現職教員の研修への参画や、各自自治体研修機関や授業研究会等との連携の深化など、これまで主に地域貢献として行ってきた現職教員向けの取り組みにも責任を持つこととなる。これらの現実を前にして今後教員養成機関は何をしなければならないのか、教員養成機関の教員に求められる役割はどのように変わっていくのか、「音楽科教員を育てること」という問題を見据えながら考えてみたい。

### 3. 院生フォーラムのご案内

参加対象を大学院生と大学院修了後2年までの方としています。既に修了された方も修士論文や博士論文の研究成果を発表する機会としてご活用ください。必ず学会入会手続をお済ませの上、9月25日(月)までに氏名・所属とタイトルをお知らせください。なお既に正会員の方は当日飛び入り参加も可能です。

[申込先 :s215m058@aeu.ac.jp]

#### 4. 懇親会（アトラクション）のご案内 @ 第一福利施設「ハンズ」

本学職員「向井健人（マジックの国際大会 FISM 元日本代表）」によるマジックショーと、第38回岐阜大会でもご披露した「郡上おどり愛教大社中」が会を盛り上げます。

#### 5. 会場のご案内：施設紹介動画 <https://www.youtube.com/watch?v=52C9WyXxuqc>

- ・受付は第1共通棟2階になります。バス停で降りて右手側へ進み、横断歩道を渡って「日進駅方面バス停」の先にある細い道を左折、[ ] を登って下さい。



登り切った所に第一共通棟 [C] があります。L字型建物の2階角が受付です。



- ・飲物の自販機は地図の H・G・4-1 とバス停などにあります。大学内と食堂・売店の営業は予定されていませんが、大学西門から西方向へ下りた 1.5km の所にコンビニとスーパーがあります。
- ・クロークは用意いたしませんので、休憩室をご利用ください。なおポスター発表会場と院生フォーラム会場は、所定の時間以外は休憩室として開放します。

#### 6. 愛知教育大学へのアクセスその1（刈谷市井ヶ谷町広沢1）<http://www.aichi-edu.ac.jp/access/index.html>

- ① 車：大学西側にある「愛教大前交差点」をめざして下さい。正門のみ開いております。大学近くにある「刈谷ハイウェイオアシス <http://www.kariya-oasis.com/index.php>」は一般道からも利用できますので、時間調整やお土産の購入に便利です。「天然温泉かきつばた」は7時～23時の営業。
  - ② 電車：名古屋鉄道「知立駅」をめざして下さい。 <http://top.meitetsu.co.jp/>
- \* バス：1番改札口を出て左側の「1番バス停」から「愛知教育大方面行き」にご乗車下さい。料金は350円です。 <http://www.meitetsu-bus.co.jp/>
- ③ [中部国際空港 → 知立] のバス：[http://www.chitabus.co.jp/pdf\\_files/chiryuu\\_kariya.pdf](http://www.chitabus.co.jp/pdf_files/chiryuu_kariya.pdf)
  - ④ [各地⇔名古屋] の高速バス：[https://www.bushikaku.net/price/aichi/\\_nagoya/](https://www.bushikaku.net/price/aichi/_nagoya/)

## 7. 愛知教育大学へのアクセスその2 (写真によるガイド)



←【知立駅 愛教大方面行きバス停】  
1番乗り場になります。

【第一共通棟 入口付近の写真】→  
ここから入って2階が受付です。



↓【第一共通棟から見た講堂】



↑  
【愛知教育大前 バス停】  
横断歩道を渡って右方向へ進みます。



## 2 政府の教育勅語使用容認答弁に関する要望書・共同声明書について

日本音楽教育学会会長 小川 容子

先月、一部の新聞やテレビ等で報道されましたように、日本教育学会は6月16日付けで、文部科学大臣宛に、要望書と共同声明書：『政府の教育勅語使用容認答弁に関する声明』を提出しました。

この声明書は、5月中旬に開催された「同緊急対応プロジェクト」、並びに、日本教育学会から提案された教育関連学会連絡協議会加盟団体への呼びかけに端を発しており、当学会を含めた17の教育学諸学会会長の共同声明です。

本学会常任理事・理事会では、ML会議を中心に、この問題の扱いについて集中的に意見交換をいたしました。理事の皆さまからは①教育勅語の使用容認と受け取られるような政府答弁に関して抗議すべきであり、②歴史的資料として用いる場合を除き、学校教育における教育勅語の使用禁止を改めて確認すべきであるとの多数のご意見をいただきました。これらの意見を踏まえ、学問的立場から提言することが学会の使命であること、あわせて、この声明書に賛同することで、学会の個人会員が、誰一人として不利益を被ることがあってはならないとの思いを強く持って、本学会会長も共同声明に加わることを学会として決定いたしました。その際、声明には、大学の研究者だけでなく多様な場を職をもつ多様な立場にある会員が、同じように賛同できるものにするよう要望いたしました。

今後、日本教育学会を中心に、シンポジウムの開催や報告書の作成等が予定されております。以下に、関連のURLを掲載いたしましたので、ご覧になってください。

政府の教育勅語使用容認答弁に関する声明 <http://www.jera.jp/20170617-1/>

教育勅語問題対応についての報告 <http://www.jera.jp/20170617-2/>

### 3 会長・理事選挙結果報告

選挙管理委員長 高橋 雅子

「第23期日本音楽教育学会会長・理事選挙」は、会則、細則、選挙管理委員会規定、会長・理事選挙実施要領に則って平成29年6月19日～7月3日の日程で実施され、7月9日に開票されました。

第23期日本音楽教育学会会長選挙の結果を下記の通り報告いたします。

記

有権者数：1,411

当選者(得票数)	次点者(得票数)	投票総数(票)	投票率(%)
今川 恭子 (76)	伊野 義博 (32)	366	25.9%

日本音楽教育学会選挙管理委員会

委員長 高橋 雅子

副委員長 中里 南子

委員 駒 久美子

” 長谷川恭子

” 水崎 誠

第23期日本音楽教育学会理事選挙の結果を下記の通り報告いたします。

記

地区	当選者		次点者	投票総数/有権者数	投票率(%)
北海道	寺田 貴雄		中村 隆夫 尾藤 弥生	16/50	32.0%
東北	今田 匡彦		降矢 美彌子	29/89	32.6%
関東	本多 佐保美 阪井 恵 坪能 由紀子 中嶋 俊夫	有本 真紀 佐野 靖 水戸 博道 島崎 篤子	嶋田 由美 山下 薫子	151/600	25.2%
北陸	玉村 恭		齊藤 忠彦	19/67	28.4%
東海	志民 一成		北山 敦康 南 曜子	42/119	35.3%
近畿	菅 道子 村尾 忠廣	奥 忍	笹野 恵理子	40/199	20.1%
中国四国	藤井 浩基		小川 容子 高橋 雅子	39/176	22.2%
九州	日吉 武	山崎 浩隆	木村 次宏 菅 裕	26/111	23.4%

有権者数：1,411

投票総数 362票 (内 白票 9/無効 1)

全体の投票率 25.7%

日本音楽教育学会選挙管理委員会

委員長 高橋 雅子

副委員長 中里 南子

委員 駒 久美子

” 長谷川恭子

” 水崎 誠

上記の結果をもちまして、第23期会長・理事選挙が滞りなく実施されましたことをご報告いたします。会員の皆様にはご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

## 2 委員会からのお知らせ

### 1 編集委員会からのお知らせ

編集委員長 有本 真紀

『音楽教育実践ジャーナル』vol.16 (通巻 29 号, 2018 年 12 月発行) の特集テーマが, 以下の 2 つに決まりました。詳しくは, 同封のチラシ, 学会ホームページをご覧ください。

特集 1 : 子どもの歌の変貌, その是非

特集 2 : 日本のピアノ教育を考える—その歴史と現状

上記のテーマにかかわらず, 自由投稿も歓迎いたします。

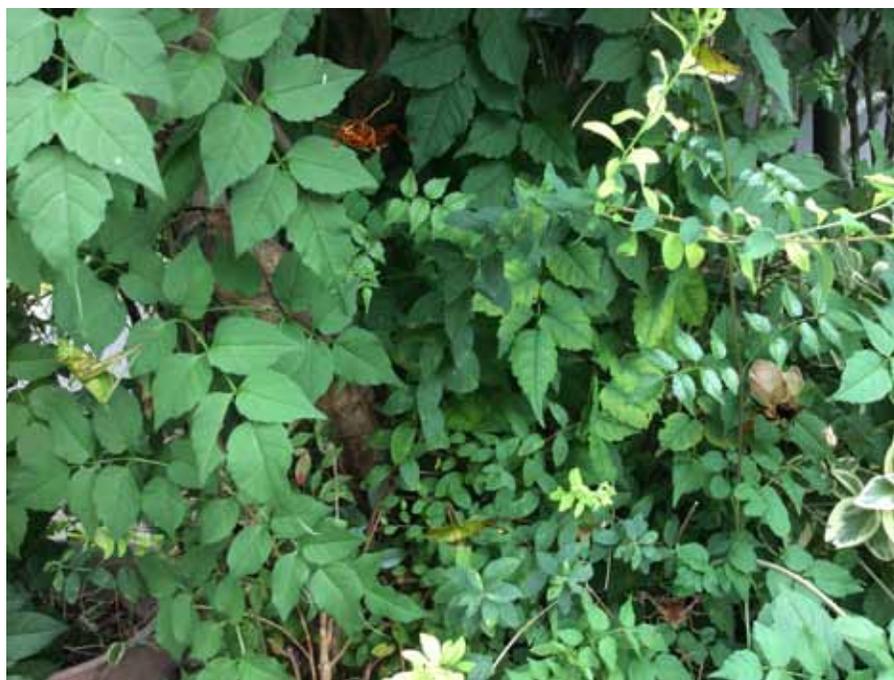
特集投稿, 自由投稿ともに,

『音楽教育実践ジャーナル』の投稿締切: 2018 年 2 月 15 日 (木)

『音楽教育学』の次回投稿締切: 2017 年 11 月 15 日 (水)

この締切では, 48-1 号 (2018 年 8 月発行) への掲載をめざします。

『音楽教育学』投稿規定, 『音楽教育実践ジャーナル』投稿規定, 「投稿の手引き」は学会ホームページからご覧いただけます。『音楽教育学』『音楽教育実践ジャーナル』ともに, みなさまからの投稿を, 心よりお待ちしております。愛知大会で発表される会員は, 投稿までを見据えて, 発表準備を進められてはいかがでしょうか。



唱歌の情景 6 〈虫のこえ—どこで鳴いているのかな?〉

### 3 音楽教育の窓

#### 1 (連載) 音楽・教育・学校 (13) APSMER 誕生秘話——生誕 20 周年を記念して

村尾 忠廣 (帝塚山大学)

過去のことを考える時、1992 年を基準にすることが癖のようにになっている。この年私は ISME リサーチセミナーを名古屋で開催した。その後の多くの出来事がこのリサーチセミナーから派生、展開していったからである。APSMER もその一つであった。

ISME リサーチセミナー委員会は、音楽心理学者カールセン James Carlsen が中心になって創設されたもので、「徹底した議論によって音楽教育の研究技術を高めること」を目的としていた。私は 1984 年から欠かさずこのセミナーで研究発表をしていた。ただし、メンバーの大半は心理学的実験研究を専門としていたのに対し、私の専門は認知音楽学である。名古屋のリサーチセミナーには、英語で議論ができて、実験的な検証のできるアジア出身者に参加してほしい。当時、そういうことのできる人は奥忍さんをおいて他にいなかった。それで、奥忍さんに発表をお願いすることにした。同時に若手の心理学的実験研究者を育てるべく、小川容子さん、水戸博道さん、木村次宏さんの 3 人に白羽の矢を当て、セミナーにオブザーバーとして参加してもらった。2 年後のマイアミセミナーでは、3 人が共同で研究発表する、という約束をとりつけてのことである。それからの 2 年間、3 人はいったいどれだけの勉強をしたのだろうか。マイアミでの ISME リサーチセミナーでは矢継ぎ早の質問にも堂々と応えていた。今更ながら驚きである。

さて、名古屋のリサーチセミナーには、海外からも国際的な初舞台に緊張していた人がいた。オーストラリアで博士号をとったばかりの若きマクファーソン Gary McPherson (後に ISME 会長) である。なぜか、私は彼と気があって、マイアミ (リサーチセミナー)、タンパ (ISME) と一緒に話がはずんだ。そのはずんだ話の一つが、リサーチセミナーのアジア・太平洋バージョンを創ろうということであった。これは私が話をもちかけた。しかし、二人だけで立ち上げるというのは何とも心細い。もう一人、アジアの他の国から立ち上げに参加してくれる人を探そうということになった。そうして見つかったのが、タンパ ISME 大会に参加していた韓国のリー Hong-soo Lee である。当初は設立大会を日本で開催する予定であった。が、私が ISME リサーチ委員会の委員長に指名されたため、こちらのセミナーの開催に専念しなければならない。そのため、予定を変更してリーにお願いし、第 1 回の大会をソウル近郊の景勝地で開催することになった。APSMER の誕生である。

第 1 回 APSMER 大会には、私の親しい友人ウォーカー Robert Walker がカナダから大学院の学生と一緒に参加してくれることになった。その時の学生の一人が今田匡彦さんである。タスマニアから参加したバレット Margaret Barrett も第 1 回 APSMER が国際デビューとなった。ソウル大会は ISME リサーチセミナーを踏襲して合宿形式としたが、何と異なった国の二人相部屋である。バレットは小川容子さんと相部屋だったという。小川さんは後に ISME リサーチ委員をつとめ、現在は日本音楽教育学会の会長である。マクファーソンも、また、バレットも後に ISME の会長をつとめた。APSMER 第 1 回大会が 1997 年だったから、今年 2017 年は 20 周年記念となる。昨日のこともあり、隔世の感もする。いずれにしても APSMER が 20 歳の大人になった。APSMER, おめでとう!

## 2 第15回世界音楽療法大会報告

渡辺 恭子 (金城学院大学)

2017年7月4日から8日まで、つくば国際会議場にて、The 15th World Congress of Music Therapy が開催された。世界各地から音楽療法の関係者が集い、Spotlight Session が4題、Symposium 16題、Round Table が23題、Workshop が約50題、Oral Presentation が約250題、Poster が約180題と盛会であった。今回はほとんどの発表について日本語訳が併記されており、希望者には日本語の同時通訳サービスがあったこともあり、国内からの参加者が多いという特徴があった。また、音楽療法の発展の歴史から考えると第3フェーズと言われるアジア圏の国や地域からの参加者が多く、これらの国々での音楽療法の発展がうかがえた。

発表では研究に関する内容が目立った。例えば、Spotlight Session では”Research of Music Therapy — Evidence and Story”, Symposium では”Critically Evolving : Current Trends in Arts—Based Research in Music Therapy”, Oral Presentation では、”Exploring an Integral Understanding of Evidence—Based Music Therapy Practice” という演題があった。ここからは、音楽療法がある一定の方法論として認められていくために、どのような研究方法でその効果を実証していくことが必要なのかについての議論が深められていると推察された。

一方で、学際的な傾向もあり、例えば、音楽療法における音楽と文化的文脈について活発な発表がなされていた。また、音楽療法らしい発表も数多くあり、自閉症スペクトラム障害や統合失調症、摂食障害、高齢者の認知症などの障害や疾患を抱えるクライアントを対象とした事例等を含む研究も数多く発表されていた。さらに、第3フェーズの国々からは、音楽療法士育成のための取り組みが報告されていた。

本大会では、特にアジア圏参加者との対話で、音楽療法に対するエネルギーを感じるが多かった。まだまだ新しい学問分野である音楽療法がこれらの国々で今後どのように発展し認知され、定着していくのか大変興味深い。



- ① コオロギ
- ② ウマオイ
- ③ マツムシ
- ④ クツワムシ
- ⑤ キリギリス
- ⑥ スズムシ

唱歌の情景6〈虫のこえ〉の答

## 4 会員の声



### 1 日本音楽教育学会会員としての矜持 ～日本音楽教育学会のアウフヘーベン～

伊申 博（愛知教育大学）

「音楽教育学会で学んでみないか」日本音楽教育学会（以後、本会と略す）会長を歴任された恩師からの入会勧誘の言葉である。爾来、永年、本会の一員として、「音楽教育と人間形成」を自己終身テーマとして、全国的な視野を持って授業の実践的研究に取り組んできた。

振り返ってみると、20代には、一年間の音楽授業の学習指導案作成に励んだ。子どもたちに数十曲に及ぶ愛唱歌を暗唱させたのもこの頃である。また、県内初採用の楽曲にも挑ませたりして、「能動的な学修」による音楽する喜びや自己有能感を味わわせた。結果的に音楽が潤いある学級経営、学校経営の礎となった。そこには不登校児は皆無であった。受けたくてたまらない授業は、行きたくてたまらない学校となる。音楽の授業時間は、生きている実感を味わう珠玉の時間でもある。教師の伴奏は、音楽授業の「発問」である。その信念の下、子どもの実態に応じた思考力・判断力・表現力を刺激する「伴奏」に心掛け実践した。永年、私の実践を見守り、支援してくださった恩師からは「授業の達人」との言葉をいただいた。当時の子どもたちとの心の絆は、今でも私の心の中で生き続けている。

30代は、全て附属校勤務であった。ほぼ毎日が、公開授業、検証授業であり、全国から多くの視察者にお越しいただいた。授業では常に新曲を子どもたちに提示し、新曲視奏として活用実践した。子どもの可能性を引き出すために、鑑賞教材扱いのシューベルトの「魔王」も表現教材として扱い、半年間伴奏の練習を重ね、全国公開をした。子どもたちの心に音楽のメモリアルを創りたい。その念願を胸に、子どもの一年間の生活歳時記を表現した自作の合唱曲は、20数年間、毎年歌い継がれている。

その後、副校長として赴任した附属中学校でも、生徒からの熱望で、中学校生活3年間の思い出を合唱曲に創作して卒業生に贈った。恩師の勧めで ISME にも複数回参加し、音楽教育の世界情勢を窺い知ることもできた。教科研究のみならず県教委・市教委の教育行政、さらには、知事部局にて県全体の教育の方向性を提言する職務にも携わらせていただいた。

40代、50代には、海外研修の機会にも恵まれ、現地校の視察、現地校での授業実践も経験させていただいた。改めて、音楽の力を実証する機会でもあった。10年以上経験させていただいた校長職時代は、毎年、作詞・作曲した合唱曲で卒業生を送り出した。世界で唯一の合唱曲による卒業式である。まさに「芸術」の「芸」が意味する手づくり卒業式である。こうした教育実践歴の中で、本学会東海地区例会で講演させていただく機会にも恵まれ、私の音楽授業づくりの基礎基本の一端を会員の皆様にご紹介した。

昨今の教育界は、バーチャルな学術論的傾向が強く、リアリティある実践論の脆弱さが否めない。本会も、ともすれば業績獲得の登竜門化する傾向がある。音楽教育者は、音楽の指導技術という直接的な目標のみならず、人間育成、人格の形成という間接的な目的を目指す音楽教育実践者であることを忘れてはならない。真の音楽教師は、そのテーマを有している。今後本会の歩むべき道は、学術論と音楽実践論のジンテーゼの確立であろう。本会に所属することは、確かな足取りを持って音楽教育を実践していくための精神的支柱、言わば教師としての矜持をもつことへと繋がる。私は、本会会員としての矜持をもって、未来の日本の教育を担う教師育成に全力を尽くすつもりである。母校開催の愛知大会が、新たな会員との出逢い、新たな自分との遭遇になる機会となり、本会がアウフヘーベンされることを願っている。

## 2 教育改革の流れの中で

木村 次宏 (福岡教育大学)

私が教師として音楽科教育の実践や研究に携わるようになって、はや30数年の月日が流れてしまいました。その間、「ゆとり教育」「新しい学力観」「教育内容の3割削減」「確かな学力」「生きる力」等々のキーワードが示すその時々時代の变化や社会の要請に応えるための教育改革が進められ、それと合わせて学習指導要領の改訂も重ねられてきました。ただそれぞれの改革においてその趣旨は理解できるものの、特に平成10年度の改訂で授業時数が大幅に削減された折には、学校音楽教育の存続に関して多くの音楽教育関係者が危機感を募らせました。本学会においても平成20年の改訂の際に音楽科の存続及び授業時数の確保を要求するための「要望書」を文部科学省に提出しましたが、改訂の結果は、「総合的な学習の時間」の縮減によって授業時数を増やした教科もある一方、音楽科は現状の時数を維持するに留まりました。

今年の3月末には新しい幼稚園教育要領、小学校・中学校学習指導要領が告示されましたが、この度の改訂においては、小学校・中学校音楽科では音楽的な見方・考え方を働かせた学習活動を展開することによって、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力の育成を目指して、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の工夫を図ることが求められています。「不易を知らざれば基立ちがたく、流行を知らざれば風新たならず」…。音楽科においても教育における不易(教科の本質・意義)と流行(時代の変化・社会の要請)の双方の視点から、新しい時代に求められる資質・能力の育成に向けての明確なビジョンを確立するとともに、それを支持する有効なエビデンスが得られる実践及び研究をスピード感をもって推進していくことがこれからますます重要となってきます。私も本学会の一員としてその流れに乗り遅れないように、もう一段ギアを上げて教育研究に取り組んでいく所存です。

## 3 日本音楽教育学会歴17年

味府 美香 (東京成徳大学)

私が音楽教育学会に入会したのは、2001年でした。この年はこれまでの音楽人生を一変する出来事ばかりで、学会への入会もその一つでした。

1999年に大学のゼミの恩師の一声で、ゼミ生全員、坪能由紀子先生のワークショップを受けることになったのがそもその始まりでした。何の積極性もなく参加したワークショップは目から鱗で、もう少しこれを知りたいと、大学院へ進学しました。当時は少しだけ知ればいいかなと軽い気持ちで、まさか今日に至るまで音楽づくりを続けているとは思っていませんでした。そして、音楽づくりを初めてから今日まで、何をすることも全力の怒涛の日々でした。

学会大会への初めての参加は、第33回金城学院大学大会でした。学生時代に大学の図書館でアルバイトをしていた私は、暇な時間で面白そうな本やCDを聴いていました。音楽づくりを知りたいと思ってからは、音楽教育の文献を読む機会が増えていたので、初めての大会では、研究発表を聞くことよりも、先生方のお名前と読んだ本とが一致することが楽しかったのを思い出します。

その後は、第1回ワークショップ、第35回武蔵野音楽大学大会、日韓合同ゼミナールなど、お手伝いもさせていただきながら、少しずつ研究者の先生方とお話する機会が出てきました。音楽のことや音楽教育のこと、研究のことを本当に楽しそうに、面白そうに、時には意見をぶつけあいお話しされる先生方と接しながら、音楽って面白い、音楽教育ってすごい、と感じていました。そんな先生方を見てきたからこそ、私は今、音楽や音楽教育に携わっているのだと思います。音楽教育学会に入会する前と入会してからの音楽人生が同じくらいの年月になるうとする今、“音楽って面白い！”を今度は自分で言っていけるように、全力の怒涛の日々を続けていきたいと思っています。

## 4 子どもの音楽表現につながるピアノ指導を目指して

井上 基子（滋賀大学大学院教育学研究科）

大学ではピアノを専攻し、卒業後は演奏活動、音楽教室でのピアノ指導、そして保育者養成のピアノ指導に携わっております。これまでは、ピアノという視点から指導方法を考えて参りました。しかしそれだけでは説得力のある指導が出来ていないと思い、幅広い視野で論理的に音楽教育を学びたいと考えました。

この4月より大学院に在籍し、保育士・教員養成のピアノ指導についての研究をすすめております。入学してはや3ヶ月、通学は仕事をしながらなので、忙しく大変ですが、歳が半分の同級生と音楽や教育について一緒に考えたり学んだり、色々な方との出会いに刺激を受け、20数年振りの学生生活を悪戦苦闘しながらも楽しんでます。

教育実践実習の授業では、附属幼稚園や附属小学校の見学をして、子どもたちがどのように生活をし、学んでいるのかを実際に目にすることが出来ました。幼稚園の年少クラスの活動では、子どもたちは、傘の形に切り取った色画用紙に、○や△などの色紙を思い思いに貼り付け、出来上がった作品を持って外に駆け出して行きます。とても良い天気だったのですが、みんな自分たちの自慢の傘を手を持ち歩きながら、へあーめ あーめ ふーれ ふーれ かあさんが〜へと楽しそうに歌っていました。その様子を見て、子どもの感性の豊かさに驚くと共に、音楽表現が、造形表現、身体表現など様々な表現活動とつながっている事を実感しました。また、子どもの表現活動につながる音楽表現の重要性を再認識し、ピアノの指導や研究に生かしたいと考えました。

この度、日本音楽教育学会に入会させて頂いたことで、会員の皆様の研究から学び、交流を持たせて頂くことで見識を広めたいと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 5 会員の最新・近刊等紹介

★大島俊樹『階名唱（いわゆる「移動ド」唱）77のウォームアップ集 — 毎回のレッスンのはじめに』

カワイ出版（自費出版）2017/6/1 B5判・32頁 [本体 1,400円 + 税]

階名唱（いわゆる「移動ド」唱）のための短いドリル課題を77曲収め、毎回の音楽レッスンで基礎訓練用で使用できる。相対音感の基礎となる理論、および楽典についても解説あり。ISBN取得せず。購入は直接著者まで（詳細：[http://blog.livedoor.jp/fixeda\\_moveddo/77](http://blog.livedoor.jp/fixeda_moveddo/77)）。

「ニュースレターは会員のホットな情報交換の場」の方針の下、この頁ではみなさまからの投稿をお待ちします。書籍の他、CD、DVDなどのリリースもお寄せ下さい。書誌情報、基本的な音源情報に加えて「である調」90字程度の紹介文をお願いします。

投稿先アドレス ☞（半角で）[onkyouiku.kouhou@gmail.com](mailto:onkyouiku.kouhou@gmail.com)

## 5 報 告

### 1 平成 29 年度第 2 回常任理事会

日 時：2017 年 7 月 17 日 (月・祝)14:00-16:00

場 所：キャンパス・イノベーションセンター (広島大学東京オフィス) 408 号会議室

出席者：小川, 今川, 権藤, 今田, 奥 (記録), 加藤, 島崎, 菅, 杉江, 坪能, 寺田, 三村

開会に先立ち小川会長より挨拶があった。

#### 【会務報告】(2017 年 5 月 14 日以降)

5 月 14 日 平成 29 年度第 1 回編集委員会 (立教大学) 平成 29 年度第 1 回常任理事会 (同上) 平成 29 年度第 1 回理事会 (同上) 第 1 回設立 50 周年記念出版準備委員会 (同上)	6 月 18 日 ニュースレター第 68 号 発行 7 月 9 日 第 23 期会長・理事選挙開票 (事務局) 7 月 17 日 平成 29 年度第 2 回常任理事会 (キャンパス・イノベーションセンター) 第 2 回設立 50 周年記念出版準備委員会 (同上)
6 月 14 日 第 48 回大会発表申込締切	
6 月 18 日 第 23 期会長・理事選挙関係書類発送	

#### 【審議事項】

##### 1. 平成 29 年度補正予算案について

島崎・寺田会計担当理事より別紙資料(2017.7.17 付)に基づいて説明があり, 以下の項目について承認した。

「I 一般会計」支出について

- ・ 翻訳費の金額は広島大学の基準を参考に設定すること承認した。
- ・ 分担金について, 団体会員分支出を以下のように検討した。
  - ISME については継続する。
  - 日本学術協力財団については 1 口 (5 万円) の申込をする。
  - RILM については文献検索等の現在の動向を踏まえて, 場合によっては退会も視野に入れつつ申し入れをする。
- ・ 大会運営費は「大会プログラム」のポスター発表が新たに開始され, その要旨の頁数が増えた分増額している。来年度に向けて検討する。

「II 研究出版基金」については「50 周年記念出版編集費」として 20 万円の支出を計上する。

##### 2. 平成 30 年度予算案について

島崎・寺田会計理事より別紙資料(2017.7.17 付)に基づいて説明があり, 以下の項目について検討した。

「II 研究出版基金」については「50 周年記念出版編集費」として 40 万円の支出を計上することを修正の上, 承認した。

### 3. 第48回大会について

- ・日程概要および実行委員会企画について、新山王実行委員長に代わって権藤事務局長から説明があった。
- ・常任理事会企画について、企画担当理事から説明があった。
- ・ポスター発表要領について説明があり、時間設定について了承するとともに、来年度に向けて検討を続けることを確認した。
- ・口頭発表・共同企画について、プロジェクターはRGBに限られていることを確認した。
- ・その他、「大会プログラム」の校正原稿が回覧され、イメージが共有された。なお、発表申込を行う際に確認する本年度会費の納入については次年度に向けての改善提案があった。

### 4. 設立50周年記念出版について

準備委員会の加藤委員長より、以下の通り報告と提案があり、了承された。

- ・進捗状況について今のところ大きな遅れはない。10月の総会報告を経て、原稿の公募を開始したいと考えている。
- ・構成については当初案をもとに再構成中である。
- ・編集体制については準備委員会の委員の役割名称を「常任編集委員」とし、公募および専門性の観点から依頼された「編集委員」「編集協力者」とともに編集体制を構成することが承認された。

(敬称略)

編集委員長： 加藤富美子

常任編集委員：有本真紀・今川恭子・小川容子・権藤敦子・齊藤忠彦・菅 裕・本多佐保美

編集委員： 石川眞佐江・尾見敦子・木村充子・古山典子・佐橋晋・吉永早苗・萬 司  
伊野義博、木村次宏、工藤傑史、柴崎かがり、西島央

編集協力者： 安久津太一・飯泉祐美子・市川恵・伊原小百合・大野はな恵・押手美加  
小井塚ななえ・国府華子・佐藤慶治・長野麻子・長畑俊道・原口直・早川倫子・  
村上康子

※「常任編集委員」は全体の編集に責任をもつ。「編集委員」は担当する部の編集に参加する。  
「編集協力者」はそれぞれの部ごとに専門的な知識の提供も含めて編集に協力する。

### 5. 日本音楽教育学会50年の歩み 編纂委員委嘱について

小川会長より、編纂委員長を佐野靖会員に委嘱したい旨提案があり、了承された。なお、編纂委員として長井覚子・長山弘会員がすでに承認されている。

### 6. 日本学術協力財団会員・ISME 団体会員等の分担金について

【審議事項】1 「I 分担金について」を参照。

### 7. 新入会員および退会者について

権藤事務局長より資料に基づいて説明があり、承認した。

なお、自然退会者の確定を選挙との関係で5月31日付としたい旨の提案があり、承認した。

## 個人情報に付き削除

平成 29 年 5 月 14 日理事会以降 正会員 新入会 49 名  
申出退会 4 名  
自然退会 48 名  
2017 年 7 月 12 日現在 正会員 1,551 名 学生会員 2 名  
名誉会員 3 名 特別会員 2 名

### 【報告事項】

#### 1. 第 23 期会長・理事選挙結果について

高橋選挙管理委員長に代わって小川会長から報告があり、了承した。

(本誌 p.5 「3. 会長・理事選挙結果報告」参照)

## 2. 政府の教育勅語使用容認答弁に関する教育諸学会会長共同声明について

小川会長より理事会メール会議を受けて声明を会長名で提出したことの報告があった。

(本誌 p.4 「2. 政府の教育勅語使用容認答弁に関する要望書・共同声明書について」参照)

## 3. 第8回夏季ワークショップについて

権藤実行委員長より「野沢温泉村内案内図」をもとにこども園・小・中学校、公民館等、開催会場の説明があり、地域の多大な協力を得て、準備が進行中であることが報告された。約80名の申込があり、地域からの参加を含めると100人規模になる見通しである。

## 4. 各委員会等報告

### (1) 編集委員会

杉江編集担当理事より以下の報告があった。

『音楽教育学』については、vol.47-1 (2017年8月末発行) 掲載の研究論文5本 (投稿原稿)、書評1本 (依頼原稿)、例会報告等を入稿した。また、5月15日の投稿締め切りには研究論文4本、研究報告1本の投稿を受理した。『音楽教育実践ジャーナル』通巻28号 (vol.15) (2017年12月末発行) は、特集1「音楽系の部活動と音楽教育」と特集2「0, 1, 2歳児と音楽教育」への投稿原稿、自由投稿原稿の他、特集に関する依頼原稿・現場探訪、図書紹介などを掲載予定で、進行中である。また、その次の『音楽教育実践ジャーナル』通巻29号 (vol.16) (2018年12月末発行) の特集テーマを決定した。(本誌 p.6 「1. 編集委員会からのお知らせ」参照)

### (2) 国際交流委員会

阪井恵委員長に代わって権藤事務局長から ISME 本部事務局と本学会との連絡が滞りなく進められるよう手続きを行ったことが報告された。

### (3) 広報委員会 (奥)

奥委員長よりニュースレター No.69 のダミーに基づいて現在の状況報告があった。

## 5. 事務局から

権藤事務局長から事務局員について長島さんから宇田川さんに交代したことの報告があった。なお、会計事務・法律の分野の専門家である長島さんについて今後も協力をお願いできる関係である旨が報告された。

## 6. その他

坪能総務担当理事から昨年度の夏期ゼミナール企画「英語で研究を海外に発信しよう」の成果として、今年度の APSMER マレーシアの日本人発表者が20名に上ることが報告された。

第3回常任理事会 10月20日(金) 時間未定 於 愛知教育大学 の予定

## 6 事務局より

事務局長 権藤 敦子

- (1) 総会の出欠について同封のハガキにご記入の上、9月30日(土)必着でお知らせください。  
総会に欠席される方は、必ず委任状に必要事項をご記入の上お送りくださいますようお願いいたします。
- (2) 正会員・特別会員の第48回大会ウェブ上の事前申込みは9月22日(金)18:00まで、入金期限は9月29日(金)です。期日までに支払いが確認できない場合、登録は取り消しとなりますので、「当日申込受付」で改めて手続きをして参加費の支払いをお願いします。
- (3) 大会当日、食堂および売店の営業、弁当の販売は行われません。事前申込みで前もって弁当を予約するか、お昼ご飯をお持ちください。
- (4) 参加費は以下のとおりです。

大会参加費	正会員・特別会員	4,000円(事前払込)・4,500円(当日)
	学生会員(当日受付のみ)(学部生)	1,000円
	臨時会員(当日受付のみ)	1日 2,500円
		2日 4,500円
懇親会		4,000円
弁当(日替わり・お茶付き)	事前払込のみ	1,000円
- (5) 長島さんに代わり、7月から宇田川さんに事務局をお手伝いいただいています。どうぞよろしくお願い申し上げます。

### 【編集後記】

残暑お見舞い申し上げます。このニュースレターが皆様のお手元に届く頃もまだまだ暑い日が続いていることと思います。今年の夏は、日本各地で豪雨による水害が相次ぎました。被災された方々、被害にあわれた方々に心よりお見舞い申し上げます。

今号では会員の声として、新入会員から中堅・ベテランの会員の方々に、音楽教育に関する多様なご経験や思いをご執筆いただきました。また、村尾忠廣氏には、本年度20周年となるAPSMER誕生の背景をご寄稿いただきました。活力あふれるこれらの記事を拝読しながら、皆様のご尽力があって本学会や日本の音楽教育が支えられていることを、改めて実感いたしました。

夏休みには、様々なイベントや研究会に参加したり、これらを運営されたりする方も多いと思います。ぜひ、「会員の声」などで皆様のご経験をお聞かせいただければと思います。また、「新刊・近刊紹介」もぜひお寄せください。広報委員一同、楽しみにお待ちしております。(山中和佳子)

投稿先アドレス✉(半角で) [onkyoiku.kouhou@gmail.com](mailto:onkyoiku.kouhou@gmail.com)

### 【日本音楽教育学会事務局】

所在地：〒184-0004 東京都小金井市本町5-38-10-206

TEL & FAX：042-381-3562 E-mail：(半角) [onkyoiku@remus.dti.ne.jp](mailto:onkyoiku@remus.dti.ne.jp)

私書箱：〒184-8799 東京都小金井郵便局私書箱26 \*郵便物は私書箱へ

開局日時：月・水・木 9:00-15:00

事務局員：亀山・若尾・宇田川